

2021年11月21日（日）／説教者：國分美生

説教：「神によるエンパワーメントー世界祈禱月間にちなんでー」

聖書：ルカによる福音書10：38～42

世界祈禱月間は各国のバプテストの女性たちの働きに思いを寄せ、その働きのために祈りの課題を共有します。その祈りはとりわけ、女性たちがリーダーシップを発揮できること、そしていままで隅に追いやられてきた者たちがエンパワーされることに焦点が当てられています。「エンパワー」とは、「奪われてきた力をとりもどすこと」と、その絶え間ないプロセスです。

マルタとマリアの物語は主イエスによってエンパワーされる物語とも読めます。マルタはイエス一行を手厚くもてなすために忙しく立ち働き、一方マリアは、イエスの足元に座って、その言葉をじっと聞いていました。ルカ福音書が「マリアがイエスに弟子入りした」ことをほのめかしている可能性があります。

イエスはその時代にはまれに見る、「男女平等」の思想も持って行動していました。イエスには女性の弟子たちがたくさんいましたが、当時ユダヤ社会では、女性が指導者に弟子入りすることはほとんどありませんでした。男性中心の家族制度の中、女性に期待された客人のおもてなしの役割を退け、むしろ男性たちに期待された弟子の役割を果たすマリアの行動をマルタは非難します。イエスは「マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない」とマルタに言われますが、それはつまり、弟子であることがマリアの、「役割」「割り振られた仕事」であるという意味です。イエスは女性たちを伝統的な縛りから解放し、その人が本来の自分らしく生きる力を与えました。そのようなイエスの姿から、私たちは「奪われてきた力を取り戻す神、エンパワーする神」の姿を見ます。私たちにとって、女性たちが自分の人生を取り戻し、神から遣わされた道を歩んでいくのは、人道的な課題ではありません。それは神の御心です。神は奪われた力を取り戻される方。そして力を取り戻した者たちが、ご自身の御用のために用いられていくことを喜ぶ神です。

そのような神の存在に、世界各国の活動するバプテストの女性たちも、不安や恐れから助けられ、力を与えられ、それぞれの場所での課題に向き合い続けています。決して、意気揚々、自信たっぷりに、何も恐れずやってきたわけではないでしょう。いまだ男性中心の社会の中で、イエスの弟子であることを選び、困難の中、主に信頼して働きを続ける女性たちの祈りに心を合わせましょう。

（國分美生）